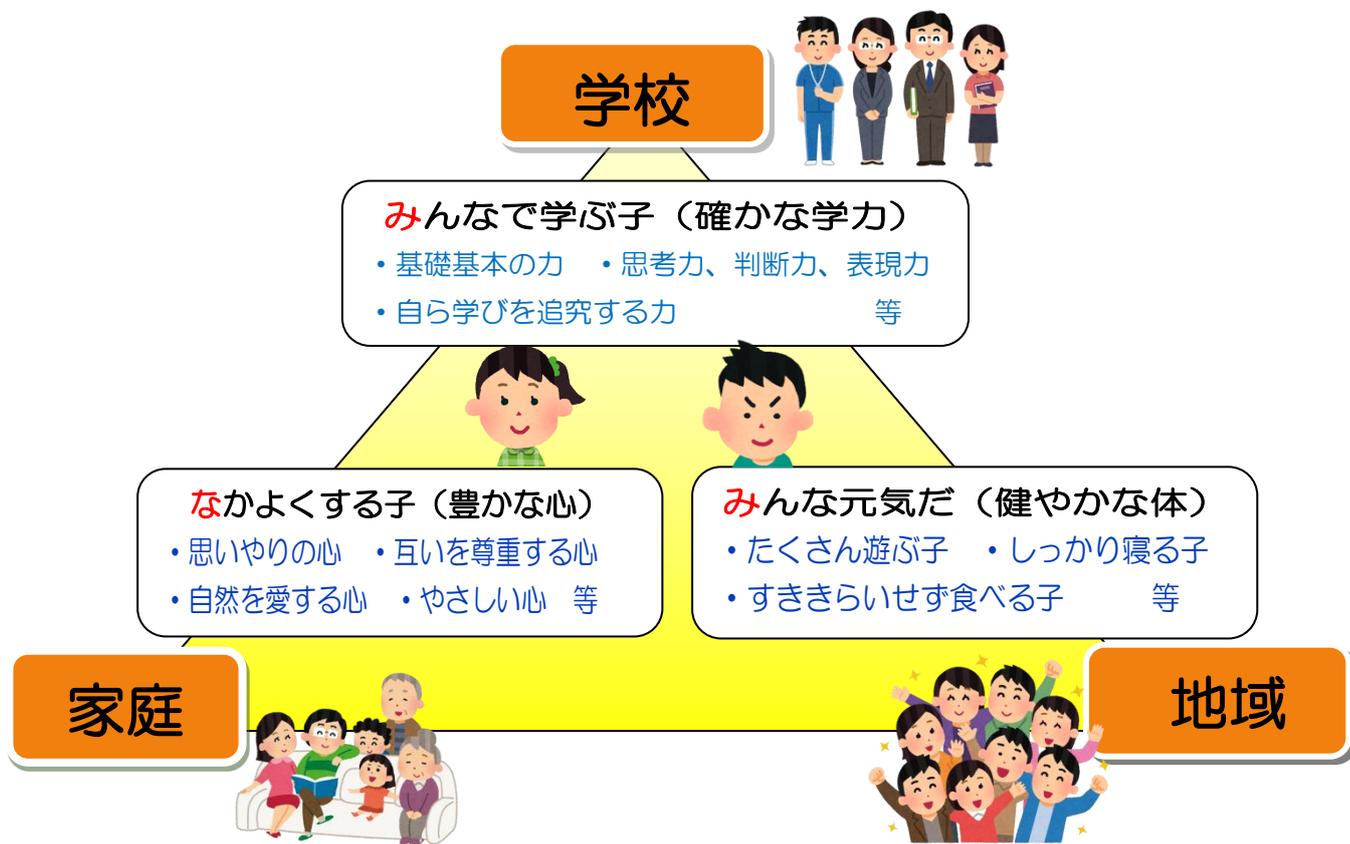


教育目標

「自ら学び共に生きる心豊かな子どもを育成する」



『学校評価の目的』

- 各校が学校運営について目標を設定し、その取り組みを評価することによって、学校として改善を図る。
- 学校評価を家庭や地域と共有することで、保護者や地域住民等からの理解と参画を得て、学校、家庭、地域が一体となって学校づくりを進める。
- 学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善を図ることで、教育水準の向上を図る。

★学校評価報告書の見方★

○内容は、各部会の主な取り組みと成果や課題です。

○各項目の評価点は、以下の基準で教職員全員が評価した際の平均点です。

4…十分達成できた

3…達成できた

2…取り組んでいるが成果は十分ではない

1…成果が不十分である

みんなで学ぶ子（確かな学力）



学力向上部 ～学びの広がり～【2. 70】

今年度も、読書力向上を目指し、全学年が朝の10分間、集中して読書に取り組んでいます。常学習（みなみっ子タイム）では、基礎基本の定着を目指し、計算問題や漢字学習などを全学年で行いました。放課後学習も2～6年生は5月から、1年生は9月から開始しました。また、興味関心のある内容を主体的に追求して学ぶ「自主学習」にも継続的に取り組みました。年度当初に「家庭学習のすすめ」を児童に配布し、各学年系統立てて自主学習が進められるようにしています。また、より学びの質を高めるために、「自主学ウィーク」を学期に1回設け、自主学大会、自主学ノート交流会をしました。自主学大会は、自主学の中でアイデアが良いもの、課題がしっかりまとめられているものを『わくわく賞』、基礎基本を丁寧に学習しているものを『ばっちり賞』に選出し、表彰するものです。また、自主学交流会では、学年内で交流するだけでなく、ロイロノートで資料として家へ持ち帰り、自主学習の参考としました。「自主学大会」「みなみっこ自主学ノート交流会」のノート資料を活用することで、課題の見つけ方や追求の仕方、ノートのまとめ方への理解を深めることをねらいとしています。

子どもたちの学力向上には、ご家庭や地域の協力がが必要です。各家庭に配布している「学びの手引き」には、具体的な学び方やモデルが示されています。今後もより一層、学校、家庭、地域が一体となって子どもたちに働きかけ、基礎基本の定着はもちろんのこと、何事も主体的に追求し学びを深められる力を育てていきたいと考えています。

言語力向上部 ～本との出会い～【3. 01】

今年度は、ボランティアグループペガサスによる毎月のおはなし会の実施や、図書時間の司書教諭による読み聞かせ活動などを通して、児童が本に出会う機会を多くつくることができました。また、図書ボランティア「ぶっくママ」さんには新しく買った本の準備や破れた本の修繕、しおり作り等、図書室の環境を整えていただきました。児童は、朝読書や読書記録に継続して取り組んでおり、読書の習慣が身につけてきています。毎朝1時間目が始まる前に学校全体で朝読書に取り組んでおり、どのクラスも落ち着いた雰囲気の中で一日をスタートすることができています。

「みんなが本を楽しく読めるような図書室にしよう」と目標を立てた図書委員会では、日々の当番活動に加え、読書週間の実施に向けて、児童が主体的に活動しました。特に、読書週間では、図書クエストと称した読書すごろくや読み聞かせ動画のテレビ放送を行うことで、児童がいろいろな分野の本に興味をもち手に取るきっかけをつくることができました。

来年度も教職員間で連携を図り、国語科での並行読書等、児童が読書の幅を広げられる機会を多くつくってまいります。

研究部 ～言葉にこだわる～【3. 07】

今年度は、「自ら考え、学び合い、豊かに表現できる子」をテーマに、学校全体として子どもたちが主体性をもって言葉の力を育むことができるような授業づくりを目指してきました。具体的には、子どもたちが学びたいと思えるような「魅力ある言語活動」やそれに向かう単元デザインの工夫、「対話を通じた学び」や「ICT機器を活用した学び」など、学び方の工夫を行いました。また、子どもたちが自分にふさわしい学びを自分で選んでいく「個別最適化された学び」につながる課題設定の工夫も行いました。児童を取り巻く言語環境はより多様化しています。また、膨大な言語情報から自らの学習課題に対して必要なものを選ぶという機会も増えました。これらの変化の中で、「言葉」というものを如何に捉え、解釈し、使っていくのかということが、これからの子どもたちには求められています。教科書に書かれた文章のみならず、並行読書材やインターネットの情報など、様々な「言葉」に触れ、そこから豊かに想像し学習に活用することを通して、「言葉によって思考し、表現する能力」を育成していきたいと考えています。

今後も、児童が豊かに学び、将来活用できる能力の土台をしっかりと作るため、様々な事柄について多面的・多角的に思考・判断・表現できる力をつけるために、授業内容や方法を精査しながら実践に取り組んで参りたいと思います。

なかよくする子（豊かな心）



生徒指導部 ～みなみっ子3つのルール～【2. 70】

今年度も「みなみっこのきまり」として「あいさつをしよう」・「名札をつけよう」・「くつ、スリッパをそろえよう」という3つを守ることで、子どもたちが落ち着いて学校生活を送ることができるのではないかと考え、様々な取り組みを行いました。今年度はあいさつ運動を生活安全委員会のメンバー中心に啓発運動を行い、子ども達からあいさつの大切さを伝えました。さらに「あいさつ隊」と題して、全校児童を対象に、希望制のあいさつ運動を行いました。名札を付けることや靴・スリッパをそろえることについては一人ひとりが気を付けながら取り組んでいく姿が多くみられましたが、まだまだ全員揃うまではいっていません。今後も基本的な生活態度についてきちんと行えるよう職員が一丸となり指導していきます。

特別活動部 ～みなみっ子ファミリー～【2. 89】

今年度もより幅広く様々な学年との関わりがもてるように、1・4・6年生と2・3・5年生でグループを作って活動する「ファミリー活動」に取り組みました。

週に1回ファミリー清掃を取り入れることで、日常的に異学年と関わる機会が増えました。高学年は低学年の見本となったり、優しく教えてあげたりする姿が見られました。それを見て、低学年も一生懸命清掃に取り組んでいました。ファミリー遊びも各学期に1回ずつ実施し、高学年が中心に企画・運営を行ってファミリーで楽しく遊ぶことができました。

また、今年度は感染症対策に気をつけながら、1年生を迎える会を実施することができ、各学年からプレゼントを渡すなどして全校生で1年生の入学を祝うことができました。実施方法を工夫して様々な活動に取り組むことができたように思います。

道徳部 ～心の成長と情報モラル～【2. 83】

道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を養い、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標として授業づくりに取り組んできました。年間を通して、道徳ファイルを作成し、学んだことや考えたことを児童が振り返ることができるようにしています。

今年度は情報機器を使う際の約束を指導することに加え、「GIGA ワークブックひょうご」から3～6学年の情報モラルに関する授業を系統立てて計画しました。具体的に「写真の撮り方」や「情報の信ぴょう性について」などを学習しました。また、道徳科の教科書の中にある情報モラル教材も活用し、各学年で規範意識を持つことができました。

また人権教育と連携し、人権週間には各学年で「人権標語」「言いたい言葉・言われたい言葉について考えよう」などを行ったり、全校で「日頃のありがとうを伝えよう」に取り組んだりし、人権について考え理解する時間を持つこともできました。

学習したことを日常生活の中で生かしていけるように、教育活動全体で道徳性を高める意識を教師が持ち、子どもたちに意識づけ・価値づけることが必要であると考えます。

来年度も、情報モラルに加え、人権教育と相互に連携しながら更なる道徳的实践力を養えるような指導を行っていきます。

みんな元気だ（健やかな体）



保健部 ～守ろう！自分の体～【2. 99】

今年度は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行に伴い、学校生活においても様々な規制が廃止されていきました。できることが多くなった反面、感染症の拡大や、児童の感染対策に対する意識の薄れが課題となりました。特に冬場においては、インフルエンザの流行が拡大し、多くのクラスで学級閉鎖を行いました。また、児童に関しては、寒い中で手洗いが十分にできていない、口を覆うことなく咳をしているなどの姿もみられました。そのため、石鹸を使った手洗い、咳エチケット、換気、生活習慣など、基本的な感染症予防について、ほけんだよりによる啓発や、健康診断前の保健に関する指導の実施、教師からの声掛けの継続等に努めました。また、児童保健委員会では、衛生検査を実施し、生活習慣と健康の保持増進についての意識の向上を図りました。各クラスの衛生検査の結果を掲示板に張り出すことで、他のクラスと競争したり、これまでの結果と比較したりしながら、楽しく結果向上を目指す姿が見られました。来年度も、児童の実態に注目しながら、自分で自分の健康の保持増進を図ろうとする態度の育成に取り組んでいきます。

体育部 ～子供と運動を紡ぐ～【3. 45】

体育では「子どもたちが運動を楽しみ生涯にわたって運動に親しむことができる素地を育てるとともに、健康的な体づくりと体力の向上を目指す」という目標のもと、授業改善や体育的行事に取り組んできました。

今年度も、目標が達成できるよう日々の授業の改善を行ってきました。授業中は、それぞれの運動のもつ楽しさに触れられるよう授業を展開することで、休み時間にも運動やスポーツに親しむ児童も多く見られるようになりました。

体育大会は、「日常では経験できない大集団で運動やスポーツに親しむ」ということを目標に実施しました。昨年度の反省を踏まえ、子どもたちにとって最大限に価値のある行事となるよう実施方法について何度も検討を重ねました。今年度も昨年度に引き続き保護者や地域の方も交えて本番を迎えることができませんでしたが、全児童で体育大会を実施することができました。当日は、一生懸命競技や演技に取り組んだり、他学年を応援したりと日常ではなかなか経験することのできない運動スポーツの楽しさに触れる良い機会となりました。

3学期には、みなみっこなわとびあそびをファミリー活動の一環として実施しました。少ない回数ではありましたが、学年の垣根を越えて一緒になわとびあそびをすることで、様々な人と運動を楽しむ力を身につけることができました。また、高学年については遊びの準備や計画を通して高学年としての自覚や、下学年への思いやりの心も育むことができました。さらに、授業の中で触れたなわとびあそびから、寒い時期でもなわとびあそびに親しむ姿が見られるようになりました。今後も子どもたちがさまざまな遊びに触れる機会を増やし、運動を楽しみながら体力を向上させることができるようにしていきたいです。

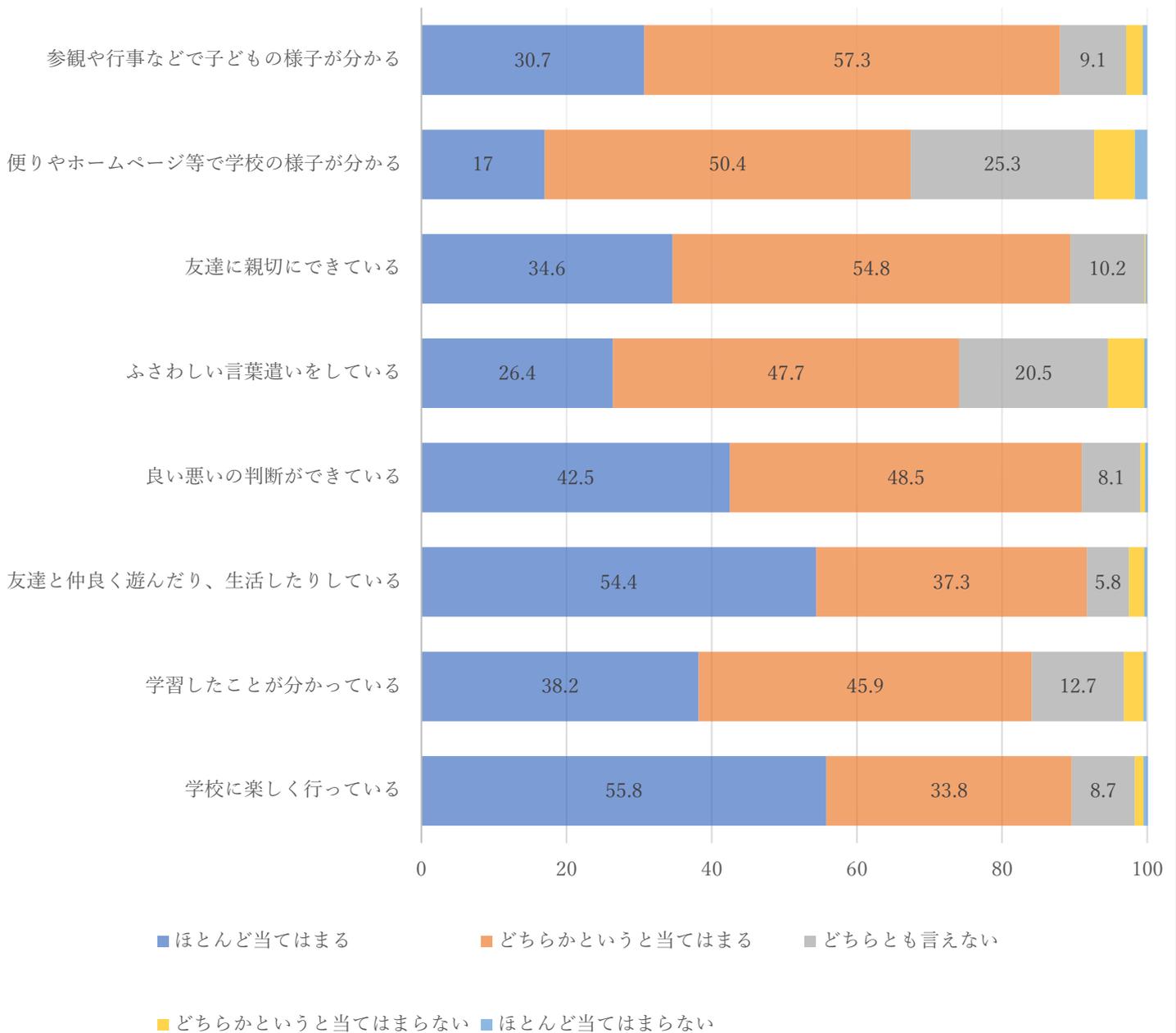
食育部 ～食生活と健康な体づくり～【3. 04】

望ましい食生活を知り、実践しようと励む児童の育成を目指して、引き続き健康的な食生活の意識向上に取り組んできました。各学級での食育指導、給食便りの発行などを定期的に行っています。給食週間は、調理師さんへの感謝の手紙贈呈、「給食のルール」「チーズミートグラタンの作り方」の動画作成と放送、クイズなどを行い、食べものや食生活に興味をもつ機会になりました。

全国食育月間に、ゲームを通して、日本の伝統的な食育文化である「箸」の持ち方に興味を持たせるためにM-1グランプリ（豆つかみ大会）を実施しました。コロナ禍で開催できなかった学校と家庭との連携を深めるために給食試食会を全学年の保護者を対象に4日間開催しました。給食エプロンの補修活動を保護者・PTA 役員の皆様にご協力頂きました。

日々の給食においては、給食委員会の児童が献立についての掲示を行うことで関心を高め、各学級で配膳時や食事の衛生管理に細心の注意を払いながら、個々の児童に合わせた配食量の工夫をしています。毎年の残食調査の結果から、残食量を減らせるように指導を続けている所です。今後も子どもたちが栄養のバランスや規則正しい生活の大切さについて知り、実践しようとすることで、健康な体づくりに繋がるよう継続的な食育指導に取り組んでいきたいと思ひます。

《保護者アンケートの主な結果》



【アンケートに寄せられた主なご意見】

- 体育大会やオープンスクールを休日に開催してほしい
- ホームページ等で学校生活の様子をもっと発信してほしい
- 配布物が電子化されたことで便利になった面と不便になった面が見られた
など

貴重なご意見ありがとうございました。今後の学校運営に生かし、より良い園田南小学校を創ってまいります。

～ 総 評 ～

みんなで学ぶ子【確かな学力の向上】

令和5年度も昨年度に引き続き、朝読書、そして昼の帯学習の時間に、算数・漢字プリントなどで基礎の定着を図り、毎週月曜日の放課後学習を実施しました。この毎日の積み重ねが、例年尼崎市で実施している「あまっ子ステップアップ調査」に結果として表れていました。小学校1年生から6年生までの国語・算数におきまして、その平均正答率は、今年度も全国平均の数値、尼崎市内の小学校の数値をすべて上回るものでした。学年、教科によっては、その差を15ポイント以上越えるものもありました。毎日の学習に向けての取り組みが結果として明確に数値に表れているものでした。

また、意識に関する調査結果では、学力向上に関係の深い20問の中の挙げられているいくつかの項目として、次のようなものがありました。

「新しく習ったことは、何度もくり返して練習している。」「テストで間違えた問題は、もう一度やり直している。」「わからないことはそのままにせず、わかるまで努力している。」「学習して、わかったりできたりすることが増えるのは、うれしい。」など、これらの質問内容に対しての、「そのとおりである」という肯定群回答割合においても、全国の数値、尼崎市の数値を上回っておりました。普段の、児童の学習に対する姿勢が、教科の数値に見事に表れているようです。

昨年度も記しましたが、読書について、本校児童はよく本を読みます。週に一コマですが、図書室で本を読んで過ごす時間を設けており、本にふれる時間が必然的に多くなっています。読書力向上担当の望月先生も、児童が様々な本に興味関心をもってもらえるように、児童に読み聞かせをしたり、今年度からは高学年を対象に、ブックトークもスタートしました。図書室で本を手にとれる最適な環境づくりをしています。

なかよくする子【豊かな心】

コロナ禍でこれまで多くの制限のあった日常生活から、コロナの種類も5類となり、社会全体が元の形に戻りました。このことを一つの機会として、従来の学校での取り組みについて再考してみました。コロナ禍で人と人とのつながりが弱くなりがちだったものを、人との関わりの中で育てられるように、取り組みそのものに厚みを持たせるなど、状況に合わせてできる限り工夫してみました。例えば、ファミリー活動に力を入れ、異学年の交流に重点を置きました。高学年の児童と低・中学年の児童とが

ファミリー清掃をとおして一緒に活動できるように設定しました。3月に実施した児童会活動としての、6年生を送る会では、6年生が運動場から退場した後に、自分たちの教室から運動場にいる下学年の児童ににこやかに手を振る姿は、本当に微笑ましい光景でした。日々のファミリー活動としての児童どうしの関わりが、優しい雰囲気を作り出していたのだと思います。

みんな元気だ【健やかな体】

今年度も体育の授業を中心に、楽しみながら健康的な体づくりと体力向上を目指して、工夫したカリキュラムを実施しました。学校行事を進めるにあたり、感染対策はしながらも、状況に応じて計画を再度見直すなど、行事のあり方に創意工夫をしてきました。今年度から、放課後あそびのために運動場を開放しました。保護者の皆様、地域の皆様のご協力をいただきながら、児童一人ひとりの充実感、達成感につなげることができたと感じています。

今年度も、インフルエンザでの感染者が急増し、学級閉鎖もあり不安が続く状況で、ご心配とご迷惑をおかけしました。年間を通して変わらず、皆様のご支援をいただきましたこと、深く感謝申し上げます。有難うございました。来年度もどうぞ宜しくお願いいたします。